低所得のシングルマザーと若者の
ファイナンシャル・ヘルスに関する調査

調査結果の概要

認定特定非営利活動法人日本NPOセンター
（J.P.モルガン支援事業）

調査・国際チームリーダー 土屋一歩

2020.07.27

調査の背景と目的

背景

- 経済的に困難を抱えるシングルマザーや若者は非正規雇用率が高く、経済的自立が困難
- 行政や民間でさまざまな支援が行われているが、十分とはいえない状況
- 支援の施策・制度と当事者ニーズのギャップの存在

目的

- ファイナンシャル・ヘルス（お金に関する健康度）という新たな視点から当事者の状況を把握・理解
- 支援の施策・制度と当事者ニーズに様々なギャップが存在するという仮説を検証
- 貧困状態への防止や、経済的自立促進のための公的支援や民間支援プログラム充実への提言

調査設計

- 調査委員会の設置：デスクトップ調査 ＋ アンケート調査 ＋ インタビュー調査 ⇒ 分析・提言

シングルマザーの現状：デスクトップ調査から

シングルマザーの現状

- 141万9000世帯のひとり親家庭（その**9割近くが母子家庭**）
- 平均年間収入**243万**円
- 年間世帯収入平均348万円（子どもがいる世帯の**平均収入（707.8万円）の半分以下**）
- 就業率81.8％ （半数近くが**非正規**）
- 預貯金**50万円未満が39.7％**
- 養育費の取り決め（42.9％）→しかし実際の受けとりは全体の**24.3％**

シングルマザー関連の主な制度・施策

- 第二次世界大戦後の死別母子家庭問題からの公的扶助が源流
- 1961年の児童扶養手当制度以降、法律や制度にもとづく支援を実施
  - **経済的支援**
  - **就労支援**
  - **セイフティネット**
- NPOなど民間でも相談や交流事業、子育て・教育支援を実施

若者の現状：デスクトップ調査から

若者の現状

- 143万人 **フリーター**、53万人 **ニート**（若年無業者）
- **非正規雇用**（15～24歳の約**半数**、25～34歳の約**1/4**）
- 非正規雇用者平均年収→**171.5万**円（正規雇用者との差**2.8倍**）

若者関連の主な制度・施策

- 1991年のバブル崩壊後の若者の失業率上昇やフリーターの社会問題化まで、行政の支援対象外
- **現在の支援策は、ニートの雇用対策が中心**で、**低所得の若年層支援はほとんどない。**NPOなどの民間も不登校・ひきこもり・無業の若者支援が中心
  - **就労支援**
  - **セイフティネット**

シングルマザーと若者の現状：デスクトップ調査から浮かび上がった仮説

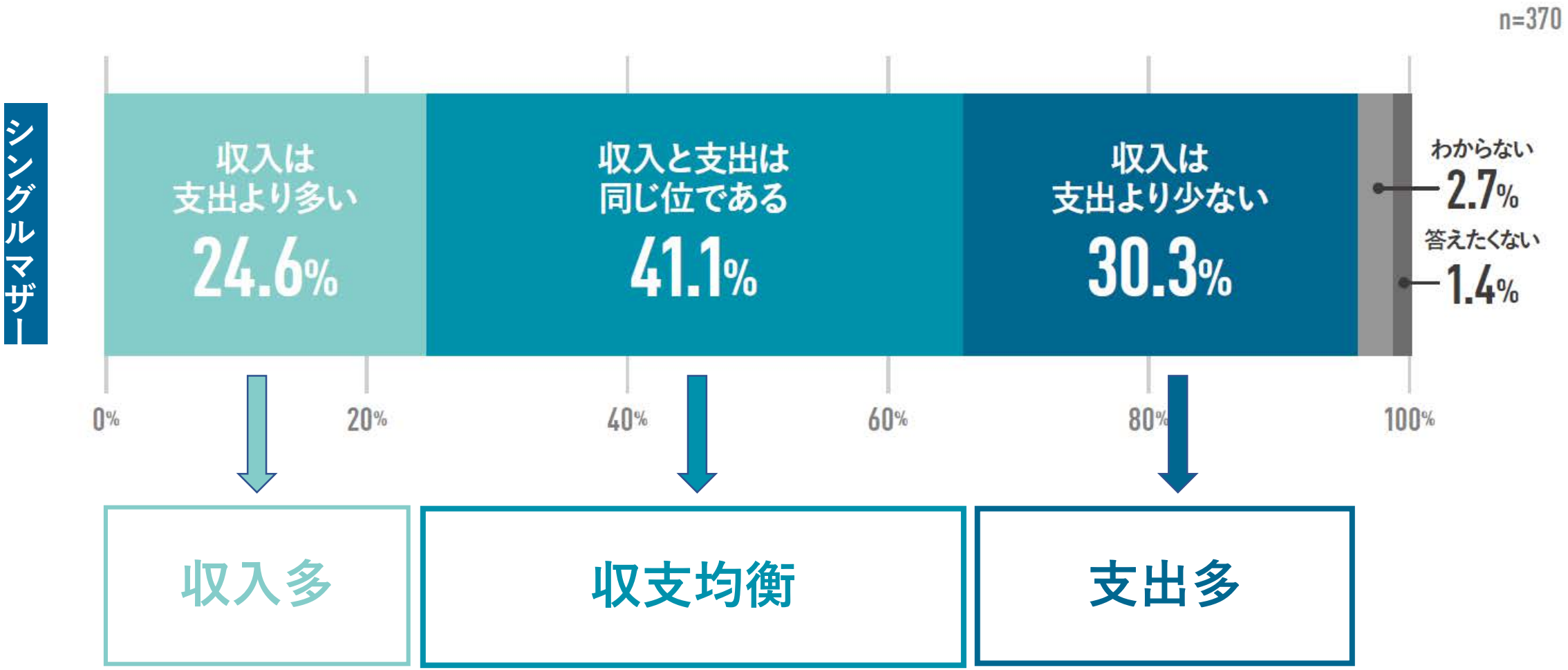
ファイナンシャル・ヘルスに課題を抱えるシングルマザー・若者の存在
一程度の支援制度・施策の存在

↓ ギャップの存在

当事者を取り巻く複合的課題の存在によって
負の連鎖からの脱却が困難

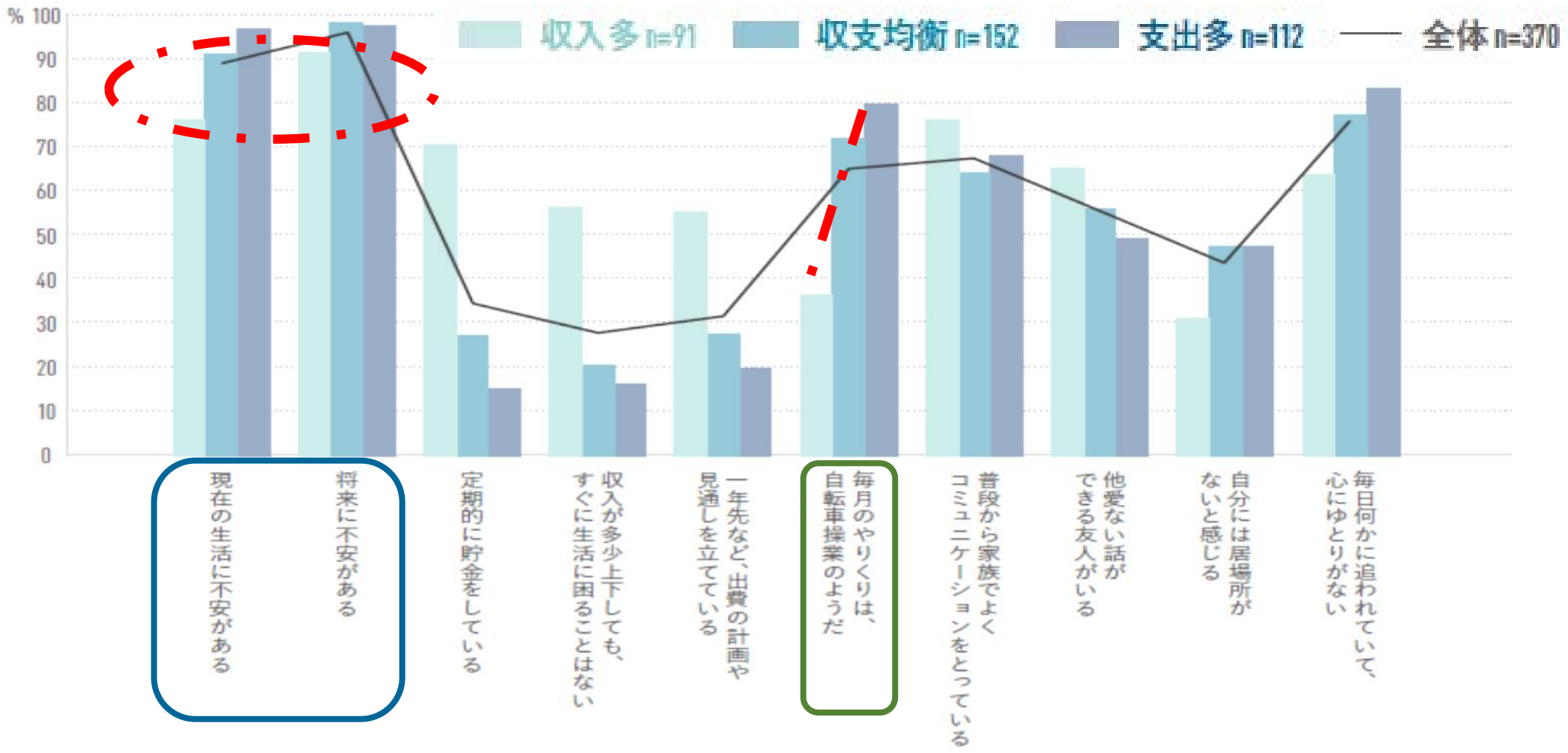
アンケート調査より：ファイナンシャル・ヘルス

現在の収入と支出の状況



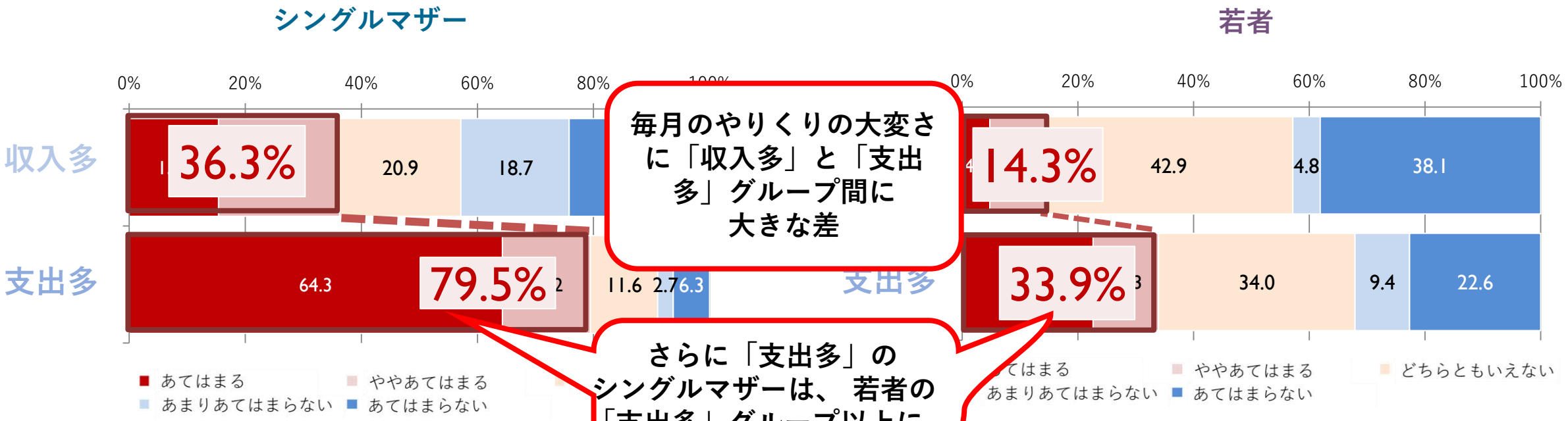
アンケート調査より：ファイナンシャル・ヘルス

「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合



調査結果より：家計管理について (1)

毎月のやりくりは、自転車操業のようだ



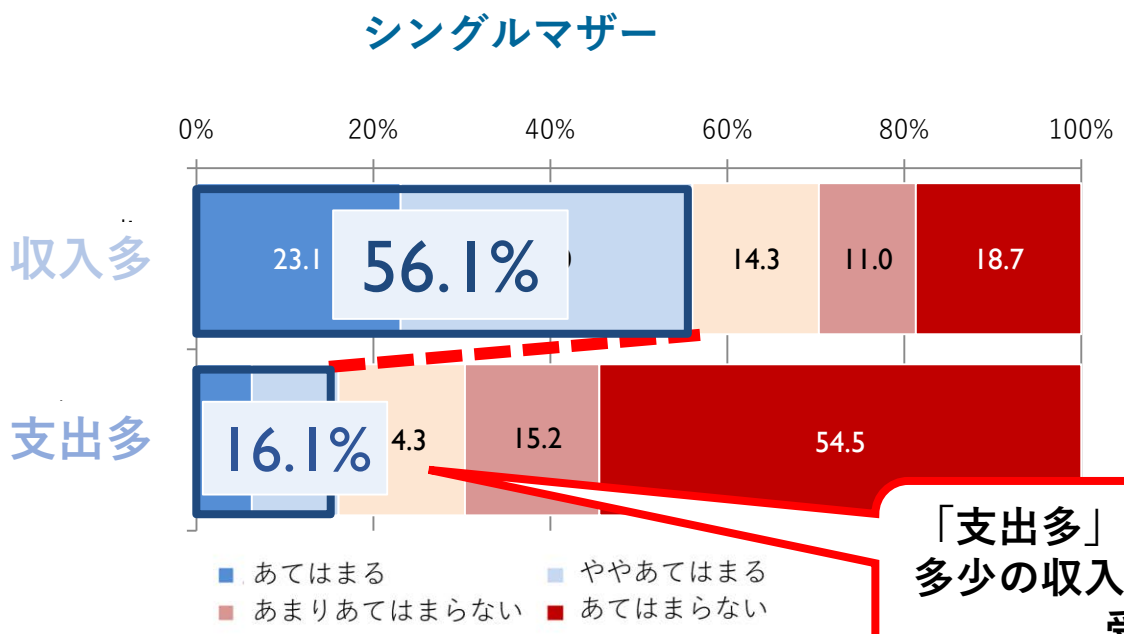
インタビュー調査からの声

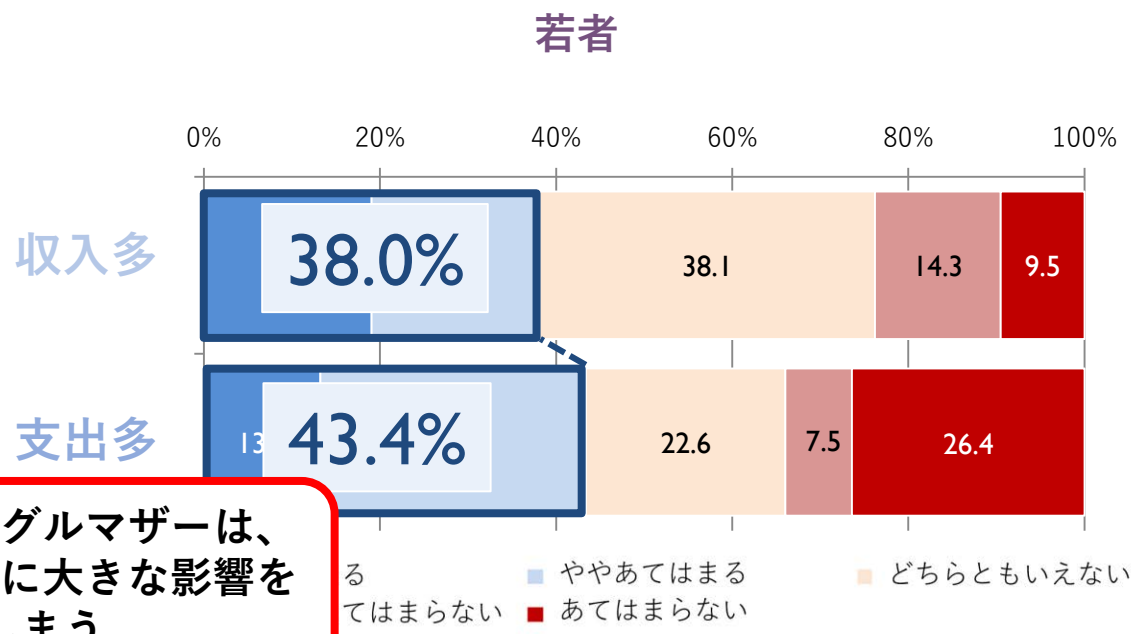
電気代などは毎月支払う余裕がないので、児童扶養手当が入るのを待って振り込んだりしている(シングルマザー)

相談者で家計の収支を理解している人はあまりいない。生活に困窮し余裕がないため家計を見る時間がなく、収支や借金の額、場合によっては家賃の額もわからない場合がある(行政)

調査結果より：家計管理について (2)

収入が多少上下しても、すぐに生活に困ることはない





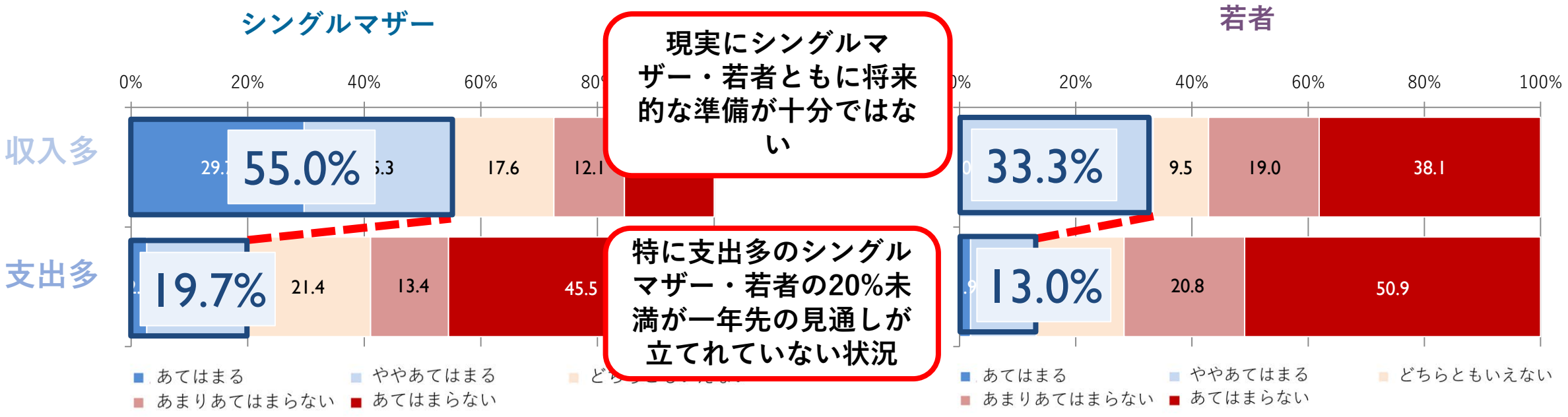
「支出多」のシングルマザーは、多少の収入の上下に大きな影響を受けてしまう

リボ払いの返済が残っているが、現金が手元にない時は食費や生活費をカードでしか払えないので、国民年金や税金は滞納を繰り返してやっと払っている（シングルマザー）

一緒に家計簿をつけながら、収支の見える化をすることで、自分が何に困っているかを相談者自身が理解し、改善方法を見つけることが効果的（行政）

調査結果より：財政的な見通しについて (1)

一年先など、出費の計画や見通しを立てている

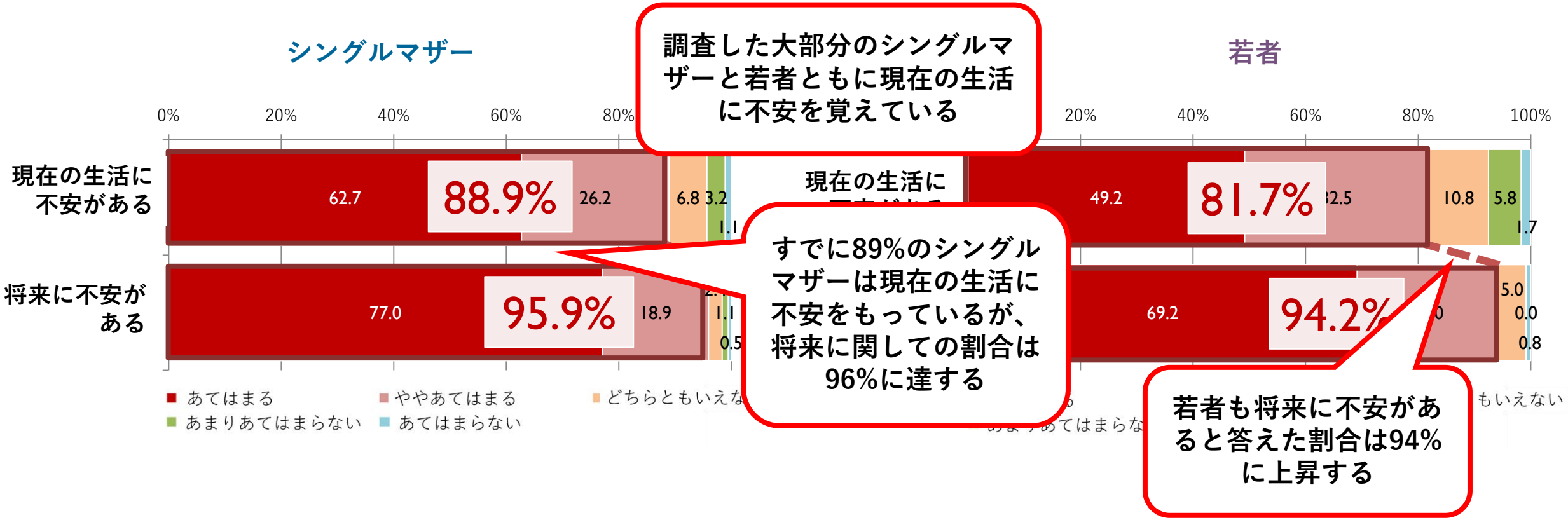


子どもの教育費を貯蓄することに精一杯のために、自分の老後のことなどは考えられない(シングルマザー)

多くの若者が経済的基盤を親に依存しているため、親がいなくなった後の備えができていない(支援NPO)

調査結果より：財政的な見通しについて (2)

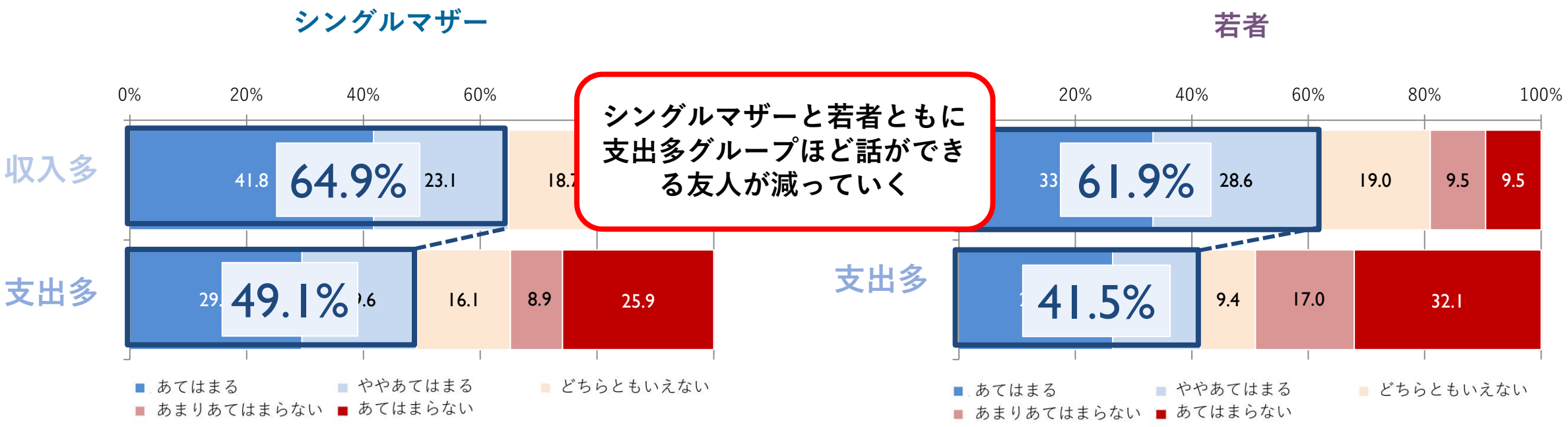
現在と将来の生活に対する不安



現在は両親と一緒だが、一人っ子なので将来的に自分が背負わなくてはならないと思うと不安な気持ちになる (若者)

調査結果より：社会とのつながり (1)

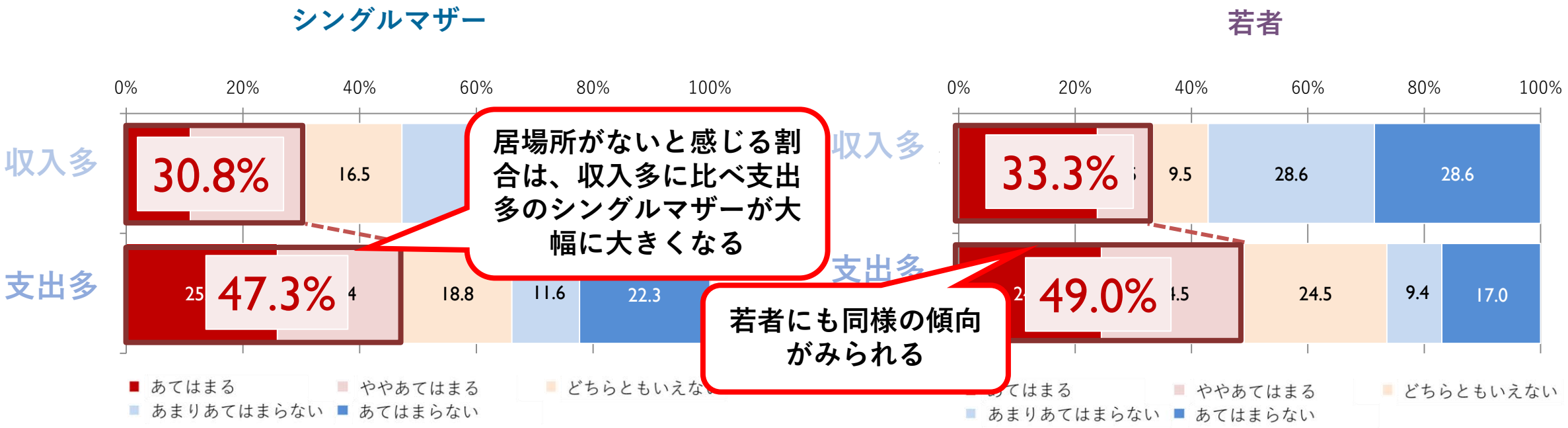
他愛ない話ができる友人がいる



頼れる人もいないし相談できる人もいない。ほとんど孤立してしまって、自分がいなくなったら子どもが一人になると思うと不安でならない (シングルマザー)

調査結果より：社会とのつながり (2)

自分には居場所がないと感じる



当事者の困難は複合的。行き場がなければひきこもってしまうため、社会とつながる居場所が必要（支援NPO）

…当事者の出身中学や高校に設置するような相談拠点が有効。はじめから相談ではなく、地域の大人たちがいろいろ話を聞いてくれる居場所が必要（研究者）

調査結果のまとめ (1)：ファイナンシャル・ヘルスの視点

シングルマザー

住居： 保証人確保。家賃負担
就労： 病気で未就労。就労率は高いが、非正規・低賃金。男性に比べて低賃金
収支： 就労支援と養育費では不十分。子どもの人数や年齢が影響
貯蓄不足、不足時の借り入れ傾向。将来に余裕がない人が極めて多い
支援制度： アクセス困難、生活保護への抵抗感
その他： 自身や子どもの障がい。ライススキル・金融リテラシー、社会とのつながりの低さ

若者

住居： 多くが親との同居。住宅費の依存
就労： 無業もしくは非正規・低賃金。障がいのため未就労
収支： 親への家計の依存。保険の未加入。奨学金返済の負担
支援制度： 情報へのアクセス困難、行政対応への不満
その他： ひきこもりや発達障害などのハンディ。ライススキルや金融リテラシー、社会とのつながりの低さ

調査結果のまとめ (2)：施策・制度と当事者ニーズ間のギャップ

支出超過 → 貯蓄不足 → 借入依存

就労支援・収入補てん政策が中心になっている

相互扶助的関係、公的資源からの孤立している

- 収入不足、支出超過の悪循環 ⇒ 就労支援や収入補てん施策では十分ではない
- 当事者の家計管理能力・リテラシー不足 ⇒ 金銭・家計管理教育、相談拠点が不十分
- 相互扶助的な人間関係や公的資源からの孤立・排除 ⇒ 対応が不十分

提言 (1)：基本的な考え方

社会構造上の問題という認識の重要性

- **社会構造や社会的慣習的な問題**

  ⇒個別の対応＋社会構造・通念を変える視点と方策
- **経済的、社会的弱者という二重の困難**

  ⇒行政の制度・施策の拡充。それを促すメディアの役割。企業の金融商品・サービスの開発、就労機会創出。消費者保護の拡充

複合的な問題への対応

- **障害をもつリスク層の存在、医療・福祉とのつながりの薄さ**

  ⇒お金の収支均衡や収支改善サービスへのアクセス＋総合的な対応の必要性

社会的孤立の解消

- **施策への認知度の差**

  ⇒周知と情報アクセスの有効な方法
- **孤立する収支多グループ**

  ⇒当事者への働きかけと心理的な支え＆居場所の拡充

提言 (2)：公的・民間支援についての提言

公的な制度・政策

- 既存事業の見直し、事業実施における柔軟な運営、空白領域における新たな支援策の検討
- 当事者の声を取り入れた議論を行い、重層的な支援のあり方を追求すべき

民間の支援プログラム

- 会計管理や社会的孤立についての課題解決に向けたプログラムの提案
- NPOと企業、行政などが協働することで、より実効性の高い支援を期待

  - ■ お金や家計に関する実用的な教育訓練の推進
  - ■ シングルマザーと若者に特化した家計管理支援ツールや、財務的ライフプランシのミュレーションツールの開発（＋サポーターの養成と伴走型支援の実施）
  - ■ 当事者の孤立を防ぐための交流事業の充実

低所得のシングルマザーと若者の
ファイナンシャル・ヘルスに関する調査

ご清聴ありがとうございました

報告書のダウンロード先：

www.jnpoc.ne.jp/wp-content/uploads/2020/06/FH_Report_JP.pdf